橋本市長賞

未来への架け橋

和歌山県立橋本高等学校　一年　大浦　由真

「ドサッ」と音を立てて、私の机に大量の教科書が置かれた。そして、私はその量に言葉を失い、憂鬱な気持ちになりながら教科書に名前を書いていた。

その教科書が税金によって購入されていると知ったのは、中学三年生のときだった。授業でそのことを知ったとき、思わず教科書の値段を見た。五百円ほどのものから千円を超えるものまであり、「この量の教科書を買いそろえるのには、どれだけのお金がかかるのだろうか。」「学校で配布されるプリントや机、椅子にかかるお金はどうしているのだろう。」と考えた。無料で教科書を全国すべての小、中学生が手に入れることができるのは、とても凄いことだと感じた。

もし、税金がなかったらどのくらいの教育費を負担しなければならないのだろうか。その額は、義務教育の九年間で約一千万円以上に上る。私はそれに衝撃を受けた。その金額を自己負担することになると、家庭に大きな負担がかかり、教育費を払えず、教育を受けることができない人が出てくるかもしれない。さらに、「それが自分だったらどうしよう。」と考えたからだ。このことを知り、自分自身が税金に大きく支えられて成長したのだと実感した。

日本の消費税は十パーセントだが、スウェーデンは二十五パーセントと高い。そのため、医療や福祉、大学までの教育費の無料などの手厚いサービスが行き届いている。これが実現できているのは、国民が高い税金を納める意味と価値を理解しているからだと思う。

生活を豊かにするために存在している税金に、私は負担を感じてしまっていた。世界的に見ると日本の税金は安い方だが、私は税金を納めることへの意義を見出せていなかったことや、必ず自分のために返ってくるとは限らないということが、その原因だったのだろう。だが、誰もが税金に支えられている。税金を納めることは直接自分のためにならないかもしれないが、他人を助けることができる。さらにそれは、自分が困ったときに他人が助けてくれるということである。だから、税金は助け合いの方法の一つであることや、必要性を心に留めて、税金を納める意味や価値を理解する必要があると思う。

私が支えてもらったように、私も税金を納めることで、周りの人々や自分の暮らしを豊かにしたい。税金は他の誰かや自分の未来のためにあり、夢や希望を与えてくれる本や教科書、設備などに変化する。

税金は未来への架け橋だ。これからは、私たちがその架け橋を繋いでいくのだ。